

# 最新の環境情報をお伝えしました

～第5回エコ・カレッジ～

11月25日にホテルレイクビュー水戸で、「大気・廃棄物・水質の最新法令と我が国の動向」と題して、第5回エコ・カレッジ（職域コース）を開催しました。環境に関する重要テーマとして、午前に大気、午後に廃棄物、水質の順で、最新情報を一度にまとめて学べる密度の濃い講座となりました。

## ○大気環境の動向 愛媛大学名誉教授 若松伸司 氏

「光化学オキシダントとPM2.5を中心として」と題し、大気環境の動向についての内容でした。初めに、基礎知識として大気汚染物質がどのようにして生成されるのか、それに即した環境基準の制定・改定の経緯についてお話しいただきました。その中で、浮遊粒子状物質と揮発性有機化合物との関係性や、太陽光による化学反応の経緯についての話があり、続けて光化学オキシダントとPM2.5についての詳しい説明がありました。その中で、微小粒子は広域的、長距離にわたり輸送されることからその拡散力を問題に上げた上で、事例を挙げつつ日本や周辺諸国の大気環境変異について解説していただきました。中国の大気汚染グラフも年々低下の一途をたどっているが、オゾンだけ増えていることをグラフから読み解き、今後日本はこの影響を受ける可能性があるかもしれないと教えていただきました。



## ○廃棄物の動向 株式会社 リーテム 取締役 浦出陽子 氏

最初に、会社の紹介やSDGsへの取り組みについての説明がありました。また、全体を通して不法投棄問題について、近年発生した盛り土の土石流問題を例に挙げつつ、産業廃棄物処理の適切な流れについて解説していただきました。これまで紙で行ってきたマニフェストの交付も、電子化率が進んでいることについてご説明していただきつつ、これからの廃棄物の適正処理とリサイクルのための法制度についてお話しいただきました。来年からプラスチック資源循環法に関する新たな



制度が予定されていることについて話されており、今後循環型経済のためにこれまでの3Rという考え方が、今後より重要になってくることを教えていただきました。

## ○水環境の動向 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長 福島武彦 氏

初めに、新しい水質環境基準についての背景として、海域での水質の改善は達成されたものの、貧酸素水塊の発生や藻場・干潟等の消失、水辺地の親水機能の低下がみられることについてお話しいただきました。そのため、従来の有機汚濁指標、栄養塩だけでなく、水生生物の生息への影響等を直接判断できる指標や国民に直感的に理解しやすい指標の導入として新しい水質環境基準が必要であると説明がありました。底層溶存酸素量(底層DO)、透明度の測定方法や問題点について、霞ヶ浦や現在指定の進んでいる琵琶湖、東京湾を例



として分かりやすい説明がありました。また、底層DOや透明度についての対策の説明もありました。リモートセンシングを利用した水環境解析について、人工衛星による広範囲エリアの調査解析事例として三方湖におけるヒシ属分布の変遷画像や面積の変化等の解説がありました。そして、地球温暖化・気候変動の水環境への影響、霞ヶ浦・北浦の水質の問題点についての説明がありました。本来冬になると冷たい水が流れ込むことによって水中の酸素がかき回され、底層溶存酸素量上がるはずのところ、地球温暖化の影響で水温が上がり、循環しなくなっている点について解説していただきました。

他にも、下水処理を徹底したことにより、水清ければ魚棲まず状態になっている点について触れ、色落ちした海藻類の写真を添えつつ、これまでの排出規制という考え方を改めるよう話されていました。従来の規制という考え方から、水質の管理という形へ進みつつあること、それに伴い、温室効果ガスの吸収源ともなる藻場の再生・創出を後押しし、海洋プラスチックごみ問題も解決しようという、今地球が抱えている問題に対する幅広いアプローチをお話しいただきました。



熱心に話を聞く受講生の皆さん